

## 村絵図から復元する江戸時代の山田村③

岡垣歴史文化研究会 石田 健次

今回は、村絵図に描かれている山田本村内を見ていくこととする。

### 【人家】

本村には38戸の人家が描かれており、枝村の茅原の4戸と合わせてこの村絵図が描かれた当時の山田村の人家は44戸であった。江戸時代の山田村の戸数は、元禄期(1688年)から文化期(1804年)にかけては56、58戸で推移している。この絵図が描かれたころ(1830年ごろ)の山田村は人口が減少している。この時期は、度重なる台風・大雨・早魃などによって凶作となり、田畠が荒廃して難渋していると古文書に記録されている。

### 【本村の道】

絵図には、唐津街道と本村内の人家を取り囲むように道が描かれているが、この本村内の道は、現在の山田区内の道とほとんど変わっていない。江戸時代における道の名残をとどめている。

### 【宝樹院】

浄土宗宝樹院は、山田村で唯一

の寺院である。鎌倉時代中期に僧弘阿誓源大和尚により開山された。福岡県地理全誌によると開山の寺は、村の南1町(約109メートル)の方にあつたとある。その後、行永妙泉比丘尼という禅尼が現在の地に地藏尊像を安置して宝樹院弘蔵寺とした。

今日のようなコミュニティ施設が無い時代に、お寺の本堂は村人の集会の場としても使われた。

### 【氏森宮と氏守八幡宮】

絵図には、氏森宮(現在の氏森神社)と氏守八幡宮(1923(大正12)年に氏森神社に合祀)が描かれている。この二つの神社は、近接していることと同音であるため参詣者に戸惑いが起きていた。氏守八幡宮記によると、氏守八幡宮で授与されていた安産のお守札を、氏森宮の参詣者にも授与するようになったとの記録が残されている。このような経過をたどり、1872(明治5)年に氏森神社が村社(氏守八幡宮は無格社)になったことから、氏森神社が安産の神様

として広く知られることになっていったと思われる。

■氏森宮は山田村の産神様である。創建年は不明であるが、山田森神と呼ばれていたとの記録もある。昔は、祭礼は11月10日で、里神楽も行われていた。現在の本殿は明治28年に再建されている。流造の妻飾・虹梁臺股式といわれる神社建築様式で、明治時代の神社建築の特徴をよく示している。

■氏守八幡宮は福岡藩の家老黒田美作一成によって1603(慶長8)年に建立されたもので、福岡藩の家老職を務めた三奈木黒田家から代々崇拜されてきた。火災などで二度にわたり消失したがその都度、三奈木黒田家により再建された。現在は、1804(文化元)年に再建された神殿と安産腰掛石が氏森神社の裏手に残されている。

### 【御米蔵】

本村内の中心となる場所に年貢米の倉庫である米蔵が描かれている。収納された年貢米はここで計量が行われた後、俵詰されて芦屋まで運ばれた。芦屋からは船積みされて若松まで輸送され、大阪の蔵屋敷に送られた。この米蔵は各村々に設置されており、糠塚村、



▲山田本村

原村の村絵図にも描かれ、その場所を特定することができる。

### 【豊前坊】

集落のはずれに豊前坊が描かれている。英彦山の豊前坊を勧請したのと思われるが、農民にとって大切な牛馬の安全や五穀豊穡を祈願していたのではないかと推測される。

英彦山の修験者(山伏)がこの地に止まって布教活動を行ったかは不明であるが、山田村に豊前坊信仰があつたことが分かる。